

就労継続支援B型事業所「ワークセンター音別」(釧路市)

○基礎情報【経営形態：しいたけ栽培等、パン製造・販売等、弁当及びオードブルの製造・販売等】

【きのこ科従業員数：5名、事業所利用者数：20名】

＜問い合わせ先＞ ワークセンター音別 ☎01547-7-3373
きのこ科課長補佐：佐藤 浩 氏 ☎090-8899-4411

1 農福連携に取り組んだ経緯

(社会福祉法人)音別憩いの郷は、かつて障がい者自立支援法施行前の授産活動として、園芸や木工を行っていたが、障がい者のより安定した雇用と生活支援をめざし、気候に大きく影響を受けないしいたけ栽培に着目。平成11年から栽培を開始し、現在に至るまで継続してきた。

2 取組内容

- (1) 就労形態：就労継続支援B型事業所。釧路市音別地区内のグループホームや近隣の市町村から、同法人のマイクロバスや乗用車で通勤。軽度～中度の知的障がいを持つ利用者が多く、40歳代が中心。
- (2) 就労期間：通年(年中無休・シフト制)
- (3) 就労時間：8:30～15:30まで(休憩12:00～13:00)
- (4) 利用者の作業内容
 - ①しいたけの栽培・包装・・・長さ30mのビニールハウス7棟で合計46,000の菌床から年間約30トン収穫し、菌床ブロックのビニールのカット、芽かき(間引き)、収穫、選別、パック詰め作業を行う。
 - ②パンの製造・販売・・・パンこねやオープン焼き、店頭陳列や接客販売等を行う。
 - ③弁当・オードブルの製造・販売・・・野菜の皮むきや盛り付け、食器の洗い物等を行う。



3 取組の特徴

- (1) どのようなしいたけが評価されるのかがわからなかったため、他の受賞者が品評会で受賞したしいたけの写真入手し、しいたけの笠(かさ)の大きさや軸の太さ・形をそろえる等の努力を重ねてきた結果、平成27年1月に、第24回全国サンマッシュ品評会において全国から945点が出展された中で第1位(最優秀賞受賞)となった。また、平成28年11月には第13回北海道きのこ品評会で全道1位(林野庁長官賞受賞)、令和3年には第31回全国サンマッシュ品評会特別賞を受賞するなど、各種品評会で、その品質の高さが高評価されている。
- (2) しいたけは、釧路、十勝、オホーツク及び日高の各振興局管内にある「コープさっぽろ」等で販売。平成27年に全国1位となった際には大きな反響があり、売上げが上昇。現在、利用者の平均工賃は月額32,000円と全道平均を上回る。
- (3) 平成24年から、笠(かさ)の大きなしいたけをハンバーガーの具に使った「しいかつバーガー」を販売。現在は「ルート38音別館おんぽーと」で販売しているが、すぐに売り切れるほどの人気商品となっている。

4 障がい者就労への考え方

- (1) かつては、一般に福祉事業所が生産した農林水産物の品質は期待されず、販売先での評価も高くなかった。しかし、各種品評会で高評価を受けたことによって、利用者が質の高い商品をめざしてしいたけ栽培を行っていることを地域社会に広く伝えられると考える。
- (2) しいたけ栽培を行うことで、利用者は収穫する楽しみや、自分達の作業が高評価された自信と誇りを感じることができる。

5 今後の予定や将来展望

- (1) 釧路市音別地区には就労先が少ないため、利用者がしいたけ栽培を通して一般就労することは難しいが、品評会での高評価を毎年続けることで、販売先から信頼を確立していきたい。
- (2) しいたけ栽培を福祉の世界にとどまらせることなく、釧路市音別地区で有名な「ふき」に並ぶ名産品として、しいたけを育て、地域の活性化に結びつけたい。